学校での学びと実生活とをつなぐ、新聞を活用した授業の在り方

指定校１年次　飯山市立城南中学校　今井　悠太

（１）本年度のＮＩＥ活動の概要

本年度は、ＮＩＥの活動１年目ということで、「新聞が生徒の学びにどのように関わることができそうか、新聞であることの効果はどのようなものか」を一つのテーマとし、研究推進の係を中心に全職員で検討し、実践を行った。活動は、大きく二つある。一つ目は、生徒が新聞に触れる機会を増やすための、新聞特設コーナーの設置である。二つ目は、新聞記事と生徒の日常生活と学習内容との関係性を見つけ、授業実践を行うことである。本年度は、社会科を研究中心教科とし、「地理分野」「歴史分野」「公民分野」のどの分野と新聞とが強い関係性をもつのかを検討した。

これらの実践により、新聞に初めて触れる生徒、毎日ある記事を楽しみに読みに来る生徒、少し時間があるので新聞をめくる生徒など、生徒の新聞への関心が徐々に高まっている様子が伺えた。また、授業づくりに関しては、新聞データベースの利活用や複数の新聞記事の読み比べ、情報量の多い新聞の読み方を工夫する提案など、職員の新聞への見方も広がったように感じる。一方で、新聞という「教材」の有用性を、生徒自身が自覚化できるまでは至らなかった。

（２）本年度のＮＩＥ活動をはじめる前の状況

本校は全校生徒２６２名、１２学級（うち特別支援学級３）である。本年度は、研究指定の１年次ということで、生徒の新聞利用の実態と、職員の授業での新聞活用の有無・活用の可能性について調査をした。その結果、生徒の新聞家庭購読数は５割程度であり、また、手に取って読む生徒は２割にも満たないことがわかり、予想以上に新聞に接する機会が少ないことが分かった。そのような生徒たちの実態を踏まえ、本年度は、社会科の授業実践での新聞活用を中心とし、全職員で社会科の授業づくりを共に考えていくことにした。

（３）ＮＩＥ活動の狙い（育てたい力）

- 社会的事象や社会にみられる課題を自分事として捉え、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を高め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成したい。
- 生徒自身が、学びを広げたり深めたりするための手段として、新聞という存在が有用であることを実感してほしい。

（４）公開授業以外のＮＩＥの取り組みの状況

本年度は、無料で一定期間に新聞社６社の定期購読ができるということで、購読した新聞を生徒が自由に手に取れるようなコーナーを、校内で一番人通りが多いスペースに設置した。普段、新聞に全く触れない生徒も、興味を示して新聞を手に取り、眺める姿が見られた。また、普段は目にしない新聞に興味を持ち、毎日一面を見に訪れる生徒もいた。

さらに、図書館司書が、新聞の切り抜きを行い、図書館前に掲示する工夫もあり、生徒の新聞に対する興味関心をさらに高めることができた。

（５） 公開授業などの活動内容

１　教科・学年　社会科（公民分野）・３学年

２　大単元名　第４章　住民として地方自治について考えよう

３　単元のねらい

地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治のしくみについて理解させるとともに、新聞やその他資料を通して、住民の権利や義務、地方公共団体の課題や課題に対する取り組みを学び、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。

また将来の飯山市を担う人材として、地理学習で培った見方・考え方や公民分野で学んだ公共の福祉と人権の視点をもって、今後の飯山市の展望を主体的に考察することで、より積極的に地方自治に参画する人材を育む。

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　地方自治は、住民参加による住民自治が基本であること、地方公共団体の政治は、首長と議会の二つの機関を中心に行われていること、地方公共団体の財政的課題を理解し、その知識を身につけている。	①　民主的な政治と政治参加にかかわる課題を見いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ②　地方公共団体の政治の仕組みに関する資料をさまざまな情報手段（主として新聞やインターネット）を活用して収集し、収集した資料のなかから、飯山市に合った取り組みやその考え方を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	地方公共団体の政治に対する関心を高め、みずからがみずからを治めるという民主政治の基本的な考え方と、その考え方にもとづく国や地方公共団体の政治のしくみについて意欲的に追究している。

５　単元展開（地方自治）

時数	授業内容　●活動	学びの視点
第1時	学習課題「地方の政治と国の政治の違いは？」 ●首長と議会の関係性が国と異なるのはなぜかの視点から、二元代表制の仕組みを理解する。 ●リコールやレファレンダムなど具体的な住民の権利について理解する。 ●振り返りの際に、新聞を活用する（リコール記事）。	地方自治の仕組みとして、国政に比べ、より民意が反映されやすい仕組みになっていることをおさえる。
第2時	学習課題「国家行政と地方行政の役割の違いは？」 ●資料を参考に地方の仕事と国の仕事の違いについて考える。 ●自治事務における財源と法定受託事務の財源について理解する。	地方交付税交付金は各地方公共団体の人口比によって、異なることをおさえる。

第3時	学習課題「なぜ地方分権なのか？」 ●地方分権を進めることのメリットとデメリットを考える。 単元を貫く学習問題「これからの飯山市を考えよう」	中央集権化から分権化の流れや目的をおさえる。
第4時	学習課題「飯山市の財政からこれからの地方財政を考えよう」 **（本時）**	
第5時	学習課題「飯山市が目指す街づくりを知ろう」 ●飯山市の第６次総合計画をもとに、市の町づくりの方向性を知り、より自分たちの願う街づくりの政策を追究する。その際より根拠になりうる(信頼性の高い)情報を自分で判断し、企画書にまとめる。 ●信毎データベースの活用 グループ追究課題「政策項目(自然・教育・産業・生きがい・安心安全な暮らし)に分かれ、他地域の取り組みで飯山市でも実践可能と思われる政策を調べ、企画書にまとめよう。」	飯山市の街づくりを知り、生徒の願うこれからの街を考えることを通して、住民参加や地域をつくる担い手の一人として、追究・考察できるようにする。
第6時	●飯山市の現状と課題を踏まえて、グループ追究課題を新聞(主にデータベース）や他地域の取り組みの記事を考えの根拠として、企画書にまとめる。 ※飯山市の現状と課題は、２年時の地理分野「身近な地域の調査」で既習である。	
第7時	学習課題「完成した『これからの町づくりの企画書』を友の意見を参考に再考しよう。」	地方自治への関わり方を自分事として考えることができる。

6　本時案

○単元のねらい

地方公共団体の財政に着目し、飯山市の財政状況の現状と変化を通して、どのような課題があるかを理解する。また地方公共団体がより住民自治(地方のことは地方で解決する)に向かうためには、自主財源と国からの依存財源がどのように変化することが望ましいかを理解することを通して、地方分権の必要性と実現の難しさを理解する。これらの視点を理解し、これからの飯山市のあるべき姿(本時でいえば、自主財源を創出できる持続可能な街づくり)を構想し、表現する。

○評価規準

①　地方公共団体の財政を支える収入について、資料の読み取りを通して理解している。（知・技）

②　自分が住んでいる地方公共団体(飯山市)の財政的な状況を読み取ることを通して、地方公共団体と国の関係性を理解し、地方自治の考えに則るならば、どのような財政状況を望むべきかを資料などから読み取り、理解している。(知・技)

③　地方分権や、そのために必要な自主財源の創出の必要性、またその手段に関して、個人やグループでの活動を通して、自分なりの構想をたて、表現している。(思・判・表)

○授業展開

	学習活動	発問計画（T：教師の発問、S：生徒の反応）	指導上の留意点	使用教材・評価
導入	① 前時の復習 ② 新聞記事（資料1）を紹介し、読む。 ③ 本時の学習課題を確認する。	T「小川村の記事を通して、わかる地方政治の課題は何ですか？」 S「財源が６％しかない」 S「これからの町づくりに必要なお金が足りていない」 T「飯山市の財政はどうなっているでしょう？資料で確認してみましょう」 S「小川村よりはよいのではないか」 S「同じような状況なのではないか」	わからない語句や気になる箇所に赤でラインを引きながら、地方自治における財政の現状と課題を紹介する。 小川村の記事を通して、飯山市の財政状況に意識を向けさせ、本時の学習課題を設定する。	新聞記事（資料1）
	学習課題　飯山市の財政からこれからの地方財政を考えよう			
展開	④ 飯山市の財政状況を確認し、財政を支えている財源の種類と役割を確認する。	T「飯山市の財政状況はどうなっていますか？」 S「半分以上が国の補助金に依存している」 S「思ったよりも多くの予算になっている」	広報飯山の財政報告書の記事を活用し、飯山市の財政状況や用語を説明する。自主財源が乏しいと自由度の高い財政活動が行えないことをおさえ、今後過疎化が進むとどうなるかを予想するよう促す。	広報飯山（資料2）
	⑤ 飯山市の自主財源が減っている地域また増えている地域はどのような地域かをペアで予想する。	T「飯山市の財政は今後、どうなると思いますか？またそれはなぜですか？」 S「人口が減っているし、減っていくのではないか」 T「地域によって、自主財源が増えている市町村があります。どのような場所でしょうか？」 S「人口が多く、企業が多い地域ではないか」	自主財源が確保できている地域とできていない地域の特徴を押さえる。	
	⑥ よりよい街づくりのために、自主財源を増やすためにはどうすればよいかをグループで考え	T「これからの飯山市がよりよい街づくりをしていくために、自主財源はどうやって増やしていけばよいか。グループで話し合ってみましょう」 S「人口を増やす政策をすればよい」 S「企業を誘致すればよい。そのため	自主財源を増やす方法を教科書や資料集を参考にグループで話し合う。	教科書 資料集 ホワイトボード

	る。	に交通網の整備が必要」 S「観光地化をすすめるべき」		
終末	⑦ 導入で紹介した記事（資料１）を再度読み、知識の変化を視覚化する。 ⑧ 本時の授業の振り返りを行う。	T「再度、授業のはじめにみた小川村の記事をもう一度、読んでみましょう。その際、理解できた用語には赤の丸を、更に深めたいと思った箇所にはその他の色でラインを記入しましょう。」	再度記事を読む際に、本時の授業で理解できた用語には赤丸を、更に深めたいと思った箇所には別の色でラインを記入するよう促す。 ポートフォリオに本時のまとめを行う。	新聞記事（資料1） ポートフォリオ

○授業資料

NIE 資料1（A）

自立の村
小川の進む道
村長選 22日告示 上

公共施設再編 負担重く

自主財源乏しく財政硬直化

小川村22年度予算 総額28億700万円

(1) 新聞の切り出し文章の中で、「気になる箇所」を赤ペンで線を引きましょう
(2) 小川村では、28 億 700 万円の予算のうち、何%を村税(自主財源)でまかなえているか？ %
(3) 小川村では、不足分の財源をどこから補っているか
(4) 小川村は今後、どのようなことに費用が増えてくる見込みか
施設の 化 に対する 化 工事のため

令和５年度 普通会計・特別会計

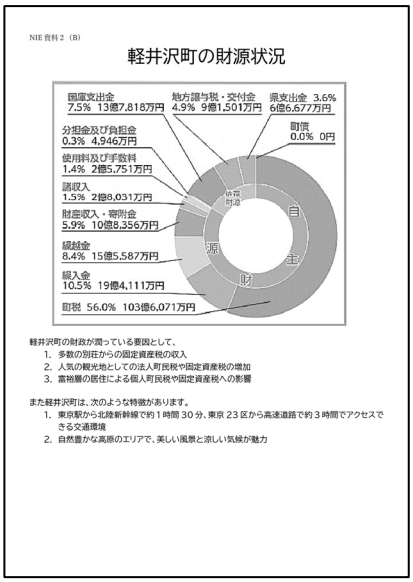
決算報告

歳入（収入）171 億 3,381 万円
歳出（支出）161 億 8,790 万円

161 億 8,790 万円 普通会計歳出

171 億 3,381 万円 普通会計歳入

市税の内訳


NIE 資料２（B）

軽井沢町の財源状況

軽井沢町の財政が潤っている要因として、
1. 多数の別荘からの固定資産税の収入
2. 人気の観光地としての法人町民税や固定資産税の増加
3. 富裕層の居住による個人町民税や固定資産税への影響

また軽井沢町は、次のような特徴があります。
1. 東京駅から北陸新幹線で約１時間 30 分、東京 23 区から高速道路で約３時間でアクセスできる交通環境
2. 自然豊かな高原のエリアで、美しい風景と涼しい気候が魅力

資料１　2022 年３月 17 日付
信濃毎日新聞記事

資料２　広報飯山 令和６年 10 月号

資料３　他自治体の財政資料

○生徒の反応

上記の**資料１**のようなワークシートへの取り組みを継続していた生徒たちは、本時の授業導入でも新聞の記事から適切に情報を読み取り、本時のねらいに近づいていった。そして、自分たちの地域の財政はどうかという問いが生まれ、**資料２**が教師から提示され、食い入るように資料を見る姿があちこちに見られた。

市の財政の歳出と歳入の中でも自主財源と依存財源を眺めたＫ生は、「市の自主財源も思ったより少ない」とつぶやき、教師の「飯山市はこれからどうしていけばよいのか」という問い掛けに対する考えをグループ内で話した。そして、「市の人口を増やす」「働ける場所を多くする」「若者が住みたいと思えるようにする」などの視点を挙げていた。

グループ活動に入る中、視点の広がりが見えないグループもあり、教師は、**資料３**の「他自治体の財政状況」の参考資料を生徒に提示した。Ｋ生は、その資料を読み「観光も飯山市

には魅力のあるものだ」という友達と会話をした。そして、学習活動の中盤では、ワールドカフェ形式の情報共有の場を設け、さらに、広い視点の確保と、自分たちのグループの考えを整理することができた。

（６） 成果と課題

本小単元の実践を振り返ると、新聞という現実味を帯びた情報をもとに学習を始めることで、実社会に対して高い興味関心をもち、自身もよりよい社会の実現に向けて参画しようとする姿が見られ、新聞を授業で活用することの高い効果を実感した。

また、本小単元に限らず、継続して新聞を読む活動を設定したことで、多くの情報量から適切に必要な情報を探し出す力も身につけつつあると実感できた。

一方で、生徒が学習で活用する資料は、教師が選択し、厳選し、意図的に準備した新聞記事であったため、生徒自身で情報を探し出すような「新聞を自在に活用する」までの学習には至っていない。さらに目指したいのは、様々な学習において、「新聞で学びが深まるのではないか」と生徒が新聞への期待感をもち、生徒自身で新聞記事を探したり、選びだしたりする力である。しかしながら、現在は、膨大な情報の中で生徒がそれを見つけ出すことが難しく、限られた授業の中では自由に新聞記事に触れることはできていない。今後、新聞記事を取捨選択し、活用できるような生徒の学びを目指すために、職員の新聞社の支援サイトの研究や研修を重ねていこうと思う。